

授業科目 微生物学実習

【担当教員名】 尾崎 京子 他		対象学年	3	対象学科	臨床
		開講時期	後期	必修選択	必修
		単位数	1	時間数	45
【カリキュラムポリシーとの関連性】					
知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	
◎	○		○	◎	
【概要・一般目標：G10】 ・微生物の生態を理解する。 ・病原性微生物を安全に扱うための手技と倫理観を習得する。					
【学習目標・行動目標：SBO】 1. 適切な消毒・滅菌処理を行う。 2. 無菌操作を確実に習得する。 3. グラム染色標本の作製と顕微鏡観察を実施する。 4. 各種細菌にふさわしい培養・検査方法を列挙し、実践する。 5. 薬剤感受性検査の結果から、各種細菌の抗菌薬に対する有効性について説明する。 6. 確認試験の結果から菌種の推定・同定ができる。 7. 各種細菌と感染症の関連について述べる。 8. 検査材料別に適した検査手順を進めることができる。					
回数	授業計画・学習の主題			SBO 番号	学習方法・学習課題 備考・担当教員
1. 2	実習室の使い方、消毒と滅菌方法、機器の使用法			1	講義・実習
3. 4	無菌操作方法、培地作成、分離培養法			1. 2	講義・実習
5. 6	コロニー観察、細菌染色と顕微鏡観察、確認培地の接種法、薬剤感受性			3-5	講義・実習
7. 8	確認培地の判定と同定、薬剤感受性の判定			3-6	講義・実習
9. 10	グラム陽性球菌の同定			3-8	講義・実習
11. 12	グラム陰性球菌の同定			3-8	講義・実習
13. 14	腸内細菌の同定			3-8	講義・実習
15. 16	ビブリオ属、ブドウ糖非発酵菌の同定			3-8	講義・実習
17. 18	ヘモフィルス、カンピロバクターの同定			3-8	講義・実習
19. 20	グラム陽性桿菌の同定、抗酸菌検査			3-8	講義・実習
21. 22	嫌気性菌・真菌の同定			3-8	講義・実習
23	検査材料別検査法			3-8	講義・実習
【使用図書】		<書名>	<著者名>	<発行所>	<発行年・価格 他>
教科書 (必ず購入する書籍)		微生物検査学 実習書	日本臨床検査学教育協議会	医歯薬出版	2012・3,600円＋税
参考書		臨床微生物検査 ハンドブック	小栗豊子	三輪書店	2011・5,000円＋税
その他の資料					
【評価方法】 ・レポート：20%（目的、方法、結果、考察、感染症との関連、検査材料との関連について記載されているかどうかで評価する。欠席した場合のレポート提出は評価対象としない。） ・実技試験：20%（基本的技術の習得の度合い、正しく同定ができるかどうかで評価する） ・定期試験：60%		【履修上の留意点】 ・実習中の感染防止のため、実習における注意事項を良く守り、無菌操作に習熟することがなにより大切です。 ・実習衣（白衣）は微生物実習専用とし、実習期間中実習室外への持ち出しは禁止します。 ・実習中、指導教員の指示に従わない場合は実習を認めないことがあります。 ・実習室内への携帯電話（スマホを含む）やPCの持ち込みは禁止します。 ・前期に行った講義内容を実践することが後期の実習です。講義内容の理解を深め、技能を確実に身につけて下さい。 ・参考書は図書館に配備します。実習時間の不足のため、臨床検査材料の実習がほとんどできません。参考書で補ってください。			